

# 「現代の名工」に藤井さん

## 山下工業所から 2人目

● 下松 ●

### 板金技術・新幹線の 先頭部から楽器まで

卓越した第一線の技能者を贅える厚生労働省の「現代の名工」に周南から下松市東海岸通り、山下工業所(山下竜登社長)の前第二工場長、藤井洋征さん(65)と光市上島田が選ばれた。板金工として新幹線の先頭など鉄道車両の複雑な曲面の打ち出しや半導体製造装置の製作に発揮している「ハンマー」による打ち出し板金技術が評価されたもので、同社からは一昨年の国村次郎さん(65)に続いて二人目。表彰式は十日、東京・明治記念館で開かれた。現代の名工は最高水準の技能を持つ労働者を表

彰し、社会的地位の向上を図るのが目的。全国では百五十人、県内からは藤井さんら四人が受賞したが、四人の同時受賞は初めて。県内からの受賞者はこれで計四十八人になった。

藤井さんは山口市小鯖出身。同社の前第一工場長で現代の名工の国村さんとは同郷の同級生で、小、中学校も山口職業訓練校板金科も一緒。山下工業所にも一九六三年(S38)に同時に入り、現相談役の創業者の山下清登社長(76)や国村さんとひたすらハンマーを振って板金を複雑な曲面に加工する打ち出し板金技術を開発し、新幹線車両の先頭部分の製造を可能にした。

二〇〇〇年(H12)に計器盤など部品づくりが中心の第二工場長に就任し、車両の構体製造が中心の第一工場長の国村さんと「二頭態勢」で活躍。最近では技能者不足克服へ若い人に関心を持ってもらおうとアルミ製のチェロやバイオリン、マグネシウム製のバイオリンを製作。今年一月に第二工場長を退き、技能指導者として後進を育成している。

十七歳で入った道も今年で四十八年目。これまで手がけた車両は新幹線や在来線、私鉄、モノレールなど三百四十両で「五年や十年では満足にできない仕事。誰もやらないし、やれない仕事だとも思った」という。図面通りにできず行き詰まったことも一度や二度ではなかったというが「続けられたのは山下社長に『やれるだけやってみて、だめでも気にするな』と励まされたお陰。満足するものができる自信は三十歳前後に『た』と振り返る。

ハンマーは常に五種類用意し、素材に合うように先を削り、打ち所や求める角度で巧みに使い分ける。後進には「まずやってみて、わからなかったら聞いてほしい」をモットーに「何でもこなすオールラウンドプレーヤーになれ」と指導している。最近手がけているアルミ製やマグネシウム製の楽器づくりは全国的に注目されているが「もう少し音がこもらない構造を考えたい。プロが弾いて本物と感じてもらえる本格的な楽器を作りたい」と燃えている。



ハンマーを手に受賞を喜ぶ藤井さん